

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成 20年 5月 28日
事業所名	グループホームよろこび (1F)
事業所番号	2371400959
記入者名	職名 管理者 氏名 服部照美
連絡先電話番号	052-625-1566

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの基本方針をふまえ、地域の中にあって、地域の方々とふれあい、なおかつ入居者が我家と同じ様にゆつたりのんびり自由に暮らしていただけるようにとの事業所独自の理念をかかげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	合同会議や職員間のミーティング或いは日々の申し送りの時などに、理念について確認しており、それに基づいてケアに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては「よろこび便り」を毎月発行し、地域と関わる行事の紹介などをしておりまたお誘いもしている。 地域に対しては屋外掲示板に理念を掲示したり、回覧板に「グループホーム便り」を載せていただいたりして、理念の理解に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者との散歩の際や、ホームの庭先での日光浴の際などに、通りがかりの近隣の方に気軽に声をかけるようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域美化運動や桶狭間古戦場保存会など活発な町内会活動に積極的に参加している。 近隣の子供達や母親を招き、「子供の日・母の日」の行事を行った。これは小学校の協力を得て、実現できている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方を対象に「高齢者の尿漏れ講座」を開催した。回覧板や隣接のスーパーへの看板設置、老人会長、民生委員などの協力を賜り、52名の参加者があった。関連機関より、医師、看護師、専門業者に講師を務めていただいた。</p> <p>ヘルパー講座の実習生受入も行っている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価が何故必要であるか、全員に説明している。いる。評価後の報告書については全員に「要改善」項目を周知し、改善に役立てている。また良い評価の部分も周知し、自信につなげている。</p> <p>自己評価はパートも含め、事業主以下全員が項目を読み、記述しており、それをまとめた形で作成している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>評価の報告は運営推進会議での重要議題であり、そのつど必ず報告をしている。その時々の問題や課題も報告、相談しており、行政とのやり取りについても報告説明している。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>名古屋市、地域包括支援センターに会議参加を仰いだその体制に無いとのことだったが、新事業（小規模多機能型ホーム）の立ち上げに際し、相談や案内では訪ねている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>H20年2月に、関連医療機関より精神保健福祉士を招き、合同会議（全体ミーティング）において、「成年後見制度」について講義をしていただいた。</p> <p>全員が完全な理解をすることは無理にしても、配布されたレジメで、概ね理解は出来た。（職員20名参加）</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>H20年3月に、ユニットリーダーが受けてきた講座を合同会議にて報告し展開した。</p> <p>H20年5月には、岡山県であった虐待の事例を紹介し、周知した。</p> <p>このことについては以前から継続的に取り組んでおり「言葉による虐待」のレベルまで、意識している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書他については必ずご家族またはご本人に説明し、理解、納得していただいている。ターミナルケアの考え方や対応できること、できないこともていねいに説明している。また解約についても説明しており、解約に至った時でもご家族が不安になることの無いよう、十分な対応をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情、意見、不満は日常会話のなかで、聞き漏らさないよう気を付け可能な限り早く対応している。またその内容は職員で共有している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の「よるこび便り」で入居者の様子を家族に報告している。金銭管理についてはお小遣い帳のコピーを郵送している。行事案内や、不満、意見があれば気軽に言ってくれるようお誘いの文章も載せている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	先ず第一に気軽に意見等言える雰囲気づくりを大切にしている。管理者は率先して家族と気軽にコミュニケーションを取れるよう関係作りに取り組んでいる。また受付にご意見箱を設置している。入居案内時には第3者の苦情申立て先について、充分説明をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、ユニットごとにスタッフミーティングを行って、職員の意見や提案を聞いている。また、全ユニットの合同会議も1回/月開催し、意見を聞く機会を設けている。日常的には管理者が職員と気軽に意思疎通を図っており、意見を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベント開催時などには多めのスタッフを配置している。急病者が出たときでも対応できる体制にある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来る限り職員の異動はしないようにしている。やむを得ず異動した職員や新人職員が勤務に付く時は、先輩職員と同じ時間帯の勤務に付きマンツーマンで指導できる体制をとり、約1ヶ月程度かけフォローを行い、利用者の戸惑いを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて実施している。外部の講習会、研修会などに積極的に参加しており、参加者には内容を合同会議で発表してもらい職員で共有している。内部的にはその時々に必要な勉強会を定期的に行っている。グループディスカッションも実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症GH協議会に加盟している。協議会が開催する研修に職員を参加させている。そこで交流をもったGHと、交流会を開催する予定がある。また、他施設の見学もさせてもらい、交流のきっかけとしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員に気軽に声を掛けている。入居者と離れた場所に会議室兼休憩室兼ロッカールームがあるので一息入れる環境がある。2回/年、親睦会、忘年会を設けストレス軽減の場としている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力、業績を評価する制度を取り入れている。また、資格取得に際しても柔軟に支援しており、評価制度もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス開始までに本人・家族及びそのケアマネージャーからよく話を聞くようにしている。医療情報や介護サマリーなども整えて、本人の安心を引き出すようにしている。	○ 色々なトラブルを想定し、グループホームとしてできること、出来ないことを事前に納得していただくようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族がどのようなことで悩まれ、利用希望に至ったかを相談時に伺い、受け止められることまたご家族に協力を仰ぎたいことなどをじっくり話し合っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の時点で空室がない場合は、入居までの間どう対応するかをケアマネージャーに相談し、他のサービスを検討してもらうなどしている。また可能ならば現在のサービスを継続し、待っていたい。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに慣れるまでは、特に職員間での情報の共有を大切にし、申し送りなどで本人の不安や希望を細かくその様子を伝えて、本人本位で馴れていただくようにしている。本人の安心や納得を得るためには場合によっては電話で声を聞いていただくなど、ご家族の協力を仰ぐこともある。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な介護にならないよう心がけている。日常生活において、料理、洗濯干し、畑仕事などの作業を共に行うよう心がけている。	○ 生活の中での楽しみについて、現在行っているレクリエーションがマンネリにならないよう、作文、スケッチ大会、楽器演奏など高度なものにも挑戦してみたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された際、本人、家族にスタッフも混じり一緒に過ごす時間を持つようにしている。季節の行事への参加を呼びかけ、一緒に楽しむことをお誘いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に一緒に外出していただいたり、居室でお話していただいたり、フロアで職員も一緒になってお話をしたりして、本人と家族の関係を理解し、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が訪ねて来た時は歓待するようにしている。家族との外出に際しても、気持ち良く行っていただけるように務めている。また隣接のスーパーに買物に出かける支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の配膳、洗濯干し、洗濯ものたたみ、掃除、食器洗いなど、その方に適したことを担っていたっている。利用者同士がその役割を認めあっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族より相談の電話があれば、親切に対応するようにしている。また、ご本人やご家族と出会ったときには必ず声を掛け、どうされているか伺い、困った時には相談に来てくださるようお誘いしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々共に生活する中で入居者の思いを把握することに務めている。その内容については申し送りや、介護記録に記録したり、スタッフミーティングで取り上げたりして、情報の共有をしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴を時間をかけて聞き取るようにしている。また家族の方からもお話を伺い、情報を得るようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活歴を参考にしたり、日常生活の中で入居者とよく接することによって、その人の心身状態や生活リズムを把握し、その関わりのなかで好きなこと、出来ることを把握して支援している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては日常生活から本人のできることを把握している。前回の計画が適切であったかどうか具体的に担当者と話し合いまた管理者に助言を求め担当者以外の職員からも情報を得て作成している。家族が来設された際に計画の説明をし、家族の意向を聞いて反映している	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、職員が入居者の日常生活の中から、改善点があるかどうか注意して見直すよう務めている。計画内容項目ごとの毎日の評価を見て、1回/月効果の評価をおこなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は入居者ごとに個別にファイルしている。職員の交代時には申し送りを行い情報を共有している。 日々の介護計画の評価は次回の介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、関連医療施設での支援を行っていることで、住み慣れた地域で暮らしていけるよう支援している。 平成21年には小規模多機能型居宅介護事業所を開設する予定があり、地域の方に柔軟なサービスが可能になると考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会、町内会長、民生委員、老人会長、小学校、消防、警察との関係を維持している。 ボランティア受入は近隣の大学にも申し込んでいる。 近所の方が定期的にボランティアで来設して下さる。こども110番の家も担っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	NPOの理美容サービスを利用している。 緑区のボランティアサークルによる読み聞かせボランティアを受け入れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターへ挨拶やPRに行き、地域の中のサービス提供者として、役立てるよう協働している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が希望する医師、医療機関で受診出来るように対応している。 受診については家族と十分に情報交換を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関に認知症の専門医がいるため、入居者全員が定期受診を受けており、相談もしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を確保している。 毎日の健康状態をチェックし、記録している。 また、記録は1週間ごとに医師が内容をチェックしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中にはお見舞いに行きながら、入院先の病院関係者より様子を伺うようにするとともに、退院の予定がわかれば聞いている。 また、元気づけ、早く戻ってこられるよう励ましの言葉をかけるようにしている。 入院先に介護情報を提供し、入居者様の特徴を少しでも多く理解していただくようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合家族の希望を聞き医療機関と連携している。 急変した時にはどうするのかについては事前に家族と話し合いが出来ており、全職員も方針を共有して、その体制で支援している。	○	看取りに向けた支援の際、混乱なく支援できるための手段として、取り決めを書面で残すなどの方法を検討して行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合又は終末期については早い段階で医師と連携して急変時にはどうするのか指示を受けながら支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>入居者が他に移る場合には介護サマリーで伝えることによって、引き続き安心して生活できるような引継ぎを行いる。 入居の際にも、前任のケアマネージャーや家族から情報を得ている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>言葉掛けについては常日頃から誇りを傷つけないような言葉掛けをするよう徹底して教育している。 スタッフからは個人情報保護に関する同意書をとっている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>センター方式を利用し本人の希望を吸い上げている。また、日常の会話の中でも表出を支援する対応をこころ掛けている。 自己決定を尊重しており、職員が一方的に決め付けることは無い。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>ひとり一人のペースに合わせて支援している。 日常的な決まりを押し付けることの無いよう指導している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>2ヶ月に1回、NPO理美容に訪問してもらい、髪型を美容師と相談のうえ整えている。衣服についても買物に付き添い、自分で選んでいただいたりしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材調理の手伝いや、配膳下膳を手伝ってもらっている。また食器洗いも手伝ってくださる。職員は楽しい会話を提供することを心がけている。静かな音楽の中で、ゆっくり食事が出来るようにしている。職員も見守りながら一緒に食事を摂っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の好みで牛乳をとったり、職員と隣接のスーパーにお菓子を買いにいったりして、自由に楽しんでもらっている。嚙下に不安の有るかたや、カロリー管理が必要な方には職員側で管理し、随時提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンに合わせ、声掛け、誘導をしている。リハパンやパットの使用量を減らす努力をしている。日中はリハパンを外し、失禁者用下着をつけていただく方もある。	○	パット汚染を減少させ、布パンツに切り替えていきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否される方もいるが、職員の連携した声掛けで安心して入浴していただいている。入浴が好きな方が多く、楽しんで利用してもらっている。概ねの時間帯は決まっているが、体調により順番が変わっても対応している。	○	特殊浴槽（チェア浴槽）を導入する予定がある
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者が出来る限り日中に活動し、より良い睡眠のリズムができるよう務めている。必要に応じて医師から薬剤を処方してもらい安眠できるようにしているがその副作用などは職員が情報を共有し改善に務めている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力を生かした役割分担はかなりできている。それぞれの方が「自分のやりがい」として誇りを持ってやっていたりしている。個々の趣味も把握しており、出来る限り楽しんでいただいている。	○	可能な限り一人ひとりが楽しみごとを持てるよう積極的に取り組みたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態にあわせ、財布を持っていただいている。買い物があれば職員が同行し、自分の財布からお金を払っていただいております、社会性の維持を図っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事会（外食）、花見、社会見学、観劇、美術館など希望を募り、計画を立て職員の配置を調整し、参加していただいている。 日常的には散歩や外気浴を取り入れている。 車椅子利用者にも分け隔てなく対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の自宅に帰宅する際に、付き添うなどの支援を提供する体制がある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者の希望に沿って利用していただいている。また年賀状などについてははがきの用意や求めによっては作成のお手伝いをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は訪問者にはいつも明るくていねいに対応している。時には職員も談笑の輪に加わり、気軽に訪ねやすいよう配慮している。 面会時間にも制限を設けていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や資料回覧、掲示などにより、身体拘束の具体的な事例を周知している。 また、言葉による拘束にも言及し尊厳を傷つけない介護を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間又は日中でも特別な状況以外の時は鍵をかけていない。 また外に出たような雰囲気を感じた時は散歩に誘い、出来るだけ閉塞感や抑圧感を感じないように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者を見守れる範囲に職員が配置されている。夜間は数時間おきに巡視したり、物音が聞えたときにはすぐに様子を見に訪室している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものと言っても、一人ひとりによって危険度が異なるので、その方の持っている能力に応じて、見守りながら使っている。 夜間は誤飲防止等のため危険物は片付けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予想される事故を合同会議でテーマとして取り上げ、勉強会を行っている。 ヒヤリハット事例は職員全員に回覧し、認識の確認の意味で押印し、事故予防に役立てている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	医師の指導により、心肺蘇生、ハイムリック法などの救急救命法を学習したが、1年以上経過している。 救急の際のマニュアルがスタッフルーム内に掲示しており、看護師、医師の指示を仰ぐ体制をとっている。 消防により甲種防火管理者の取得の際の救急救命講習は過去に8名受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年、避難訓練を行っており、夜間想定訓練も行っている。消防署の協力を仰ぎ、指導していただいている。ユニットリーダーを中心に防災委員会を設け避難の体制の充実を図っている。 地域との協力体制は町内会レベルで協力を仰いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	ご家族がいらした際に、日常の様子とともに、起こりうる危険についてはお話している。 体調管理の把握は看護師によりなされており、随時家族に報告し、相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師が日常的に「入居者様健康状態日常確認表」を記録し、状態を把握している。また記録は1週ごとに医師に確認してもらっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方された薬剤情報を読み理解するよう務めている。一覧表を作成し、何度も確認するシステムを作り誤与薬のないようにしている。処方薬の変更があった際には皆で綿密に申し送り、看護師にも報告をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便確認及び記録を行っており、排泄パターンを把握していることで便秘予防に努めている。状況によっては薬剤調整も行っている。 水分補給に気をつけ、運動を促し、場合によっては腹部マッサージも行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けにより個人個人に合った口腔ケアをしている。 義歯の方は就寝前に洗浄している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理されている。一人ひとり摂取量は記録し、把握されている。摂取量が少ない方に関しては栄養補助剤を利用している。水分摂取量が少ない時には、水分補給を促している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種を受けるよう指導している。 季節的なものに関しては、注意を喚起するポスターを自主制作し掲示し全員に周知している。 院内感染の講習会にも参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎日消毒している。 食器も高温乾燥殺菌を行っている。 調理時はビニール手袋を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関回りに季節の花を飾ったり、ベンチを置くな ど親しみやすいように工夫している。 また、クリスマスシーズンにはイルミネーション を飾るなど地域の方に楽しく馴染みやすい雰囲気 を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節にちなんだ作品を工夫し て、飾ったり掲示したりしている。 陽射しに対してはヨシズを使ったり、カーテンを 工夫したりして落ち着いた感じにしている。 また水回りに野の花を飾るなどさりげない飾りつ けもしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室の畳で思い思いに過ごしていただ いている。和室などはお茶の間感覚を演出し、く つろぎやすいようにしている。 皆さんと職員で作った作品を展示したり、入居者 が書いた「書」などを飾って楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が長年愛用しているものを持ってきたり、テレビ、ラジオを持ち込んでおられる。自分で書いた書や絵を居室に飾り、自分の部屋らしくしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、居室の空気入れ替えを行っている。居室は温度調節は自由にしているが、必ず職員が確認しアドバイスしている。また空気清浄機を導入し、快適に過ごしていただけるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーとなっており、トイレ、風呂、ホール内に手摺が設置されており、安全である。玄関には椅子を置き、靴の履き替えに利用していただいている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室にはネームプレートや好みの写真が掲げられ、混乱しないよう工夫している。またのれんなど吊るされている方もある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関には四季折々の花を飾り外回りにも花を配している。玄関脇に長イスを置き外気浴、日光浴を気持ち良く楽しむのに、花が一役かっている。裏には畑があり、畑仕事を楽しむ方もいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「グループホームよるこび」は母体組織が病院ということもあり、介護における医療面でのケアが特に充実していると考えています。

人工透析をされている方にも、隣接する透析センターで透析を受けていただけます。

日常的には看護師が常駐しており、さらに毎日きめ細かい健康状態チェックが行われている為、安心した日々を過ごしていただくことができます。

また入居者様やご家族様に対する「接遇」にも力を入れております。優しさあふれる対応、入居者様の尊厳を最重要視した対応を心がけております。

職員は年間計画に沿った研修や講習を積極的に取り入れて、スキルアップを図っています。

地域密着型サービスの理念を理解し、地域と協働してゆくことを大切にして、地域に可愛がっていただけるグループホームを目指しています。

職員一同は運営理念（よ…寄り添いながら ろ…老後の こ…こころを癒し び…美風のある住まいで）を共有し、入居者様に明るく広い空間の中で、ゆったり過ごしていただけるよう心をひとつにして、介護にあたっています。